

# 小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 26

2018年6月5日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

## 「あるべき論」を超え、まちづくりへ踏み出そう

白梅学園大学小平学・まちづくり研究所

山路憲夫

白梅学園大学小平学・まちづくり研究所を設立して1年余の間、6回の研究会、2回の市民公開シンポジウムを開いた。まだまだ小平でのまちづくり論を深めていく必要はある。同時に「あるべき論」を超え、実践的なまちづくりにつなげるネットワークづくりへの必要性も痛感させられた。

ご承知のように、高齢化が加速し、地域で増え続ける要介護、要支援、その予備軍の高齢者を支えていくためには医療制度や介護保険など既存の法制度だけでなく、地域住民が参画し、見守りや配食、制度の谷間にある生活支援サービスを担う地域づくりを進めていかないと不可能である、というのが今進められている地域包括ケアシステム作りの最大の柱である。

地域包括ケアの柱としての「医療・介護・福祉・住まい」の四点セットのうちの福祉は地域住民が主体となって担

う。ただ法律や制度に基づく市町村行政にとって、法律や制度の外にある、インフォーマルサポートとしての地域住民による福祉活動は行政がこれまでほとんど関わってこなかった分野である。その役割は市町村の社会福祉協議会に委ねられてきた。

ところが、ここにいたってもなお、市町村の社会福祉協議会や、そこで結集するボランティアの方々の動きをみると、なかなか地域包括ケアシステムの中で「福祉」を担う意識が出てこない。昨年から今年にかけ東村山市で第五次地域福祉計画(2018年度から6年間)の策定の議論をした際もそれを痛感させられた。地域福祉計画づくりにあたって、その一方の主体である住民は社会福祉協議会の下で結集するボランティアが中心であり、「あるべき論」は語るが、地域包括ケアシステムの中での「福祉」を担う計画とは残念ながらならなかった。東村山市に限らず、社会福祉協議会が組織するボランティアの多くは「生きがいボランティア」であり、地域で自立困難な一人暮らしや認知症高齢者のニーズに応える担い手とはならなかなりにくい。

従来型の生きがいボランティアや「あるべき論」の繰り返しでは、地域の課題を解決することにはならない。「あるべき論」を克服して、まちづくりへ踏み出そう。そう訴えたい。

### 小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

# あそぼうかい&世代間交流広場

## 山田 彩音 (保育科2年)



しらめ子育て広場は今年で14年目になりますが、今年も様々な広場を開催しています。4月28日土曜日に行われた4月あそぼうかいでは、天候にも恵まれ、地域から50組をこえる親子やディケアのお年寄り、そして一般の方々など、約130人の方に足を運んでいただくこと



ことができました。学生も100人をこえ、会場がいっぱいとなりました。

当日は『ようこそサファリパークへ』をテーマに紙皿で動物を作ったり、魚釣り、ボーリングやパンダをモチーフにしたバス、動物と背比べができる装飾など、サファリパークに来た気持ちで楽しんで遊んでいただくことができました。

おわりのつどいはたくさん動物が出てくるオリジナルストーリーで、会場全体で楽しめる劇となりました。新入

生も入り、初めてのあそぼう会でしたが、会場を笑顔でいっぱいにすることが出来ました。



次のあそぼう会は7月7日(土)午後です。今後とも白梅子育て広場をよろしくお願いたします。



<コメント>

今回は上級生が新入生に見本を見せて、それを参考にして1年生が自分たちで取り組むことになっています。既にテーマや企画は進んでいますが、どのようなものが出来上がるのか楽しみです。参加された地域の子どもたちや保護者の方々からは、「楽しかった」「また参加したい」という声があり、学生たちは励まされています。

開設以来14年目をむかえている白梅子育て広場ですが、これからも地域との繋がりを大切にしながら歩いていくことと思います。

## 白梅学園高等学校吹奏楽部

# 第27回定期演奏会を終えて

顧問 吉田 明美

本校吹奏楽部は創部30年目を迎え、定期演奏会の開催は27回目となりました。このように吹奏楽部が活動してこられたのも、学園関係者をはじめ、保護者のみなさま、そして地域のみなさまのご理解とご協力あってのことと存じます。感謝の思いを『音』で届けたいと考え、部員一同練習に励んで参りました。定期演奏会は私たちにとって、とても大切な行事となっております。



本年度の定期演奏会も小平市文化振興財団主催のもと、『ルネこだいら吹奏楽フェスティバル』に参加し、ルネこだいら大ホールにて開演いたしました。白梅は参加校の中で唯一女子高であります。その良さを感じて頂けるような内容にしたい、と生徒達は準備を重ねて参りました。箏曲部や合唱部とのコラボレーションステージの企画、また今年度は、国本女子高等学校吹奏楽部の近藤礼奈さんをお迎えし、オーボエとハープを演奏して頂きました。

国本女子高等学校吹奏楽部は東京都吹奏楽コンクールにて金賞を受賞し、東日本吹奏楽大会で金賞、日本管楽合奏コンテスト全国大会にて最優秀賞、ブレイン賞を受賞するなど、都内でも有名な吹

奏楽の名門校です。白梅吹奏楽部にとっていわば憧れであり、ライバルでもある学校です。その国本女子高等学校が演奏していた、酒井格作曲『森の贈り物』を今回のプログラムに入れました。しかし、白梅にはハープが無く、演奏できる者も居ない…といった状況となり、国本の鈴木先生に相談したところ、こころよくハープと演奏者を派遣して下さいました。このような機会を頂戴し、憧れの学校との共演は大変嬉しく、近藤さんが参加して下さいましたことで部員にとってはよ



い刺激ともなりました。当日は国本女子の生徒さんも多く来場して下さい、国本女子高等学校吹奏楽部の定期演奏会にも白梅の生徒が聴きに行くなど、交流を深めるきっかけともなりました。音楽が大好きで、吹奏楽への情熱いっばいの高校生同士、これからも切磋琢磨し合えることを願っています。

また今年も小平市の地域のみなさまに数多くご来場いただきました。客観的な視点での温かいお言葉を頂戴し、部員一同大変喜んでおります。みなさまからの応援を糧に、これからも活動して参りたいと思います。

## 開校50周年を迎えて

小平第十二小学校長 木田 明男

5月16日は本校の開校記念日でした。おかげさまで

今年度、開校50周年を迎えました。

学校沿革史によると昭和43年(1968年)5月16日、小平第一小学校より分かれて初代校長武内 進先生以下23名の教職員と1年～5年、10学級346名の児童でスタートし、5月30日には当時の大島宇一市長をはじめとする来賓や土地提供者の皆様ほか多数の参会者をお迎えして小平第十二小学校創立及び新築落成記念式が挙行されたと記録が残っています。

「望み呼ぶ風すばらしい 青空のような明るいひとみ ひらいて若芽を 伸ばし合い 知識の花の実 育てゆくラララ 小平十二小学生」これは小平第十二小学校校歌二番の歌詞です。この校歌は、開校から5年経った昭和48年に制定されました。

どの子も支え合いながらみんな立派に成長して自立し、仲良く助けあい共に生きる喜びに向かって生きてい



る。

一つの目標に向かい互いに切磋琢磨しながら高め合っていく事を願っているようです。学校を・人々そして町を輝かせる多くの人々が、小平第十二小学校を支え、大切にし、発展を祈ってくださっています。改めて感謝申し上げます。

50年の長期間、継承され続けた先人の願いや期待に立ち返り、確認し、新たな一歩を歩み始めることが、周年記念の意義であろうと考えます。「小平の小川町のための小平第十二小学校」改めて地域の学校である認識を強く持ち、むかしからの教え「子どもたちはよく学び、立派に成長して、よい未来社会の形成者になってほしい」を肝に銘じて、これからの小平第十二小学校の教育活動を推進してまいります。



10月27日(土)には開校50周年記念式典と祝賀会を予定しています。また50年の歩みを綴る記念誌の作成もスタートしています。今まで以上に皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 小平西地区地域ネットワーク 第27回懇談会報告

3月10日(土)15時より白梅学園大学J棟において、西ネット第29回地域懇談会が開催されました。草野篤子氏(白梅学園大学名誉教授)の開会のあいさつに続いて「地域における緑成会整育園の役割―心身障害児者施設として」の演題で、緑成会整育園事業部長の大久保敦司氏より、小川西町での整育園の歩みと小川1丁目の武蔵野美術大学横に建築された新園舎などについてスライドを使って説明が行われました。緑成会整育園は一般財団法人 多摩緑成会が運営する施設で昭和25年の設立以来65年になります。

新しい園舎には重度の心身障害児・者が長期的にまた短期的に入所することができ、合わせて地域の診療として歯科と小児内科が開かれています。またリハビリテーション部や看護部、薬剤部、栄養部等があり、心身の障がいケアするための組織とスタッフが配置されています。

小川西町にあったところは地域の行事などに積極的に

参加することもありましたが、だんだん外に出なくなり地域の交流が減ってきたことを反省していました。現在のところに移ってきて、あらためて地域との繋がりを大事にしていくことが必要であると位置づけ、積極的に外に出るようになっているそうです。質疑では小川西から移ってきた経緯や障がいの程度、今後の対応等について出されています。大久保さんからは是非歯科や小児内科を活用してほしいということでチラシなども配布されました。講演のあと全体の話し合いとして、いくつかの提起や連絡がありました。

残り40分は各ブロックに分かれて、それぞれの地域の取組みについて交流がなされました。西ネットがスタートして6年が経過し、「さつき」や「きよか」「えん」等のコミュニティ・サロンが地域に定着してきている中で、ブロックの集まりもその人脈が広がってきています。(瀧口)

## コミュニティサロンほっとスペースさつき

# 5周年の慰労会を開催

森山千賀子（子ども学部 家族・地域支援学科 ほっとスペースさつき運営委員）

2018年2月28日に、ほっとスペースさつきは5周年を迎えました。そして、3月3日のひな祭りの日に「梅の花国分寺店」で、恒例のスタッフの慰労会を開催し25名のスタッフと運営委員等が参集しました。当日は晴天に恵まれビルの17階にある会場には、暖かな日差しが入り春を感じさせてくれました。



5周年として、「さつきに連なる方々へ」には挨拶

文をお送りさせていた  
だきましたが、サプ  
ライズとして渡辺穂積代  
表に”感謝状”を贈り  
ました。

あなたはコミュニティ  
サロンほっとスペース  
さつきの代表として、

好きなゴルフも制限し、地域の居場所作りに誠心誠  
意取り組まれ、地域の方にとってかけがえのない交  
流の場が実現しました。開所五周年にあたりその功  
績をたたえ深く感謝の意を表します。

コミュニティサロンほっとスペースさつき関係者一  
同

今年は6年目です。よい1年を過ぎて行きたい  
と思います。ミニバザーは、6月3日10時から  
の開催です。秋にも開催します。どうぞ、お立ち寄り  
ください。



## 9人が巣立ち、“里帰り”へ

### —3月8日分かった会修了式—

分かった会 奈良 勝行

3月8日(木)に第3回目の“修了式”が小川公民館で  
行われました。“式”と言っても一切形式ばらず巣立ちい  
く3年生に「修了証」と記念品を手渡し、「代表」の私のス  
ピーチ以外あいさつはなく、最後に記念写真を撮るだけ  
という質素なもの。終わりに下級生と講師全員の拍手で  
送りだしました。9人の修了生が誇らしげに帰宅していく  
姿を見てホッとしました。この3年間で彼らは見違えるよう  
に心身ともに成長し、その多くが講師を“見下げる”ように  
身長が高くなりました。中学生のときが人生で一番身長  
が伸びるものということを実感しました。

分かった会は2013年12月に誕生して以来、5年目を  
迎え、2018年5月現在、生徒数は25人(小6の生徒を  
1人含む)、講師は10人の中高年の大人+数人の学生  
で運営。この4年半に開講回数も250回を数えます。毎  
年3月に7~9人の「修了生」がそれぞれ都・私立の高校  
入試に合格して進学したというささやかな“成果”をつくり  
出してきました。

分かった会は貧困家庭だけでなく、フツー家庭の子な  
ど来たい生徒は原則受け入れています。そこは小平市



が行っている貧困家庭支援の学習支援事業と違うところです。中には、かなり“できる子”もいて、学校ではできないような他の生徒と触れ合うのが“目的”で通ってきている者も。以前は、私語が多くなってしまったので、学校のように黒板に向かっておしゃべりしないように座席配置し

たところ集中して勉強するようになりまし。

修了式から2か月、今年は例年と違って少し様子が違った変化が——。高校に巣立っていった修了生が“里帰り”したのです。数人の修了した女子が「分かった会」に顔を出して後輩の中学生に勉強を教えてくれるのです。これがなんともほほえましい！。もちろん、彼女たちには勉強会が終わった後は、講師に高校の難しい勉強を教えてもらえるという“期待”があります。後輩の中学生は年齢がほとんど変わらない先輩に教えてもらえるので嬉しそう。後輩が「ウン、ウン」とうなづくのをはたで見ていると、分かった会の「未来」が見えるようです。

分かった会の「課題」はやはり講師不足をどうするかです。世知辛い世の中で無償で講師をしてくれる大人はほとんどいない。実は、そこでこういう修了生に大いに期待をかけています。いつの日か、彼らが大学に進学し、社会人になってからこの分かった会を引き継いでくれる「世代交代」となることを——。

## まちで楽しむ6ー学生が作るまち小平

「まちで楽しむ」とは、地域を拠点に活動している学生たちが活動内容を発表したり、学生や来場した地域の方々のディスカッションを通してさらに地域を知り、触れ合うイベントということになっています。6回目となった今年は5月20日（日）武蔵野美術大学を会場として行われました。主催は学生のまちで楽しむ6実行委員会と小平市大学連携協議会です。



午後1時より開会式が行われ、実行委員会代表、小

平市大学連携協議会会長より挨拶がありました。

第一部は学生によるプレゼンテーションで、発表団体として参加した各大学のサークルや組織がそれぞれのブースで参加者に説明し、20分ごとに移動して説明を聞くという形で6回行いました。発表団体は以下の通りです。

- ・小平観光街づくり（文化学園大学栗山ゼミ）
- ・障がい者週間についてのプロジェクト（武蔵野美術大学視覚デザイン3年空間構成Ⅲけやきチーム）

- ・白梅子育て広場（白梅学園大学・短期大学）
- ・2018芸術祭執行部企画部の活動（武蔵野大学芸術祭執行部企画部）
- ・小学生向けライントレースロボット製作教室（職業能力開発大学校ロボット部）
- ・小平アートプロジェクト（武蔵野美術大学芸術文化学科）
- ・私が見た福島（福島復興支援ツアー2017）
- ・小平市の図書館ブランディング（武蔵野美術大学視覚デザイン3年空間構成Ⅲ図書館チーム）
- ・キラキラ☆マジカルカプセル（武蔵野美術大学有志）



- ・イベント執行部活動報告会（嘉悦大学イベント執行部）
- ・フェアトレード

推進（津田塾大学 Chicas Unidas）

- ・みんなで作る音楽祭in小平（みんなで作る音楽祭実行委員会）
- ・アトリエちびくろ（武蔵野美術大学造形教育研究

会)

- ・みんなに愛されるキャラクターづくり (上宿小・武蔵野美術大学キャラクター実行委員会)

それぞれ各大学の特徴を生かした取組みと発表で、参加者は5つのブースで直接話を聞きながら、合間にその他のブースの様子をのぞきこんでいました。質問もたくさん出て、説明も熱が入りました。

第二部は学生と市民によるディスカッションとい

うことで、6つのグループに分かれてそれぞれの団体の共通点や違い、そして今後の発展として考えられることを話し合いました。最後に各グループから発表があり、やっている活動は違っても共通する部分も多く、あらためて地域で活動することの意味が見えてきました。市民の感想でも、学生たちがこのように頑張っていることに対して高い評価がありました。(瀧口)

## 西ネットを笑顔で支えた「瀧口真央さん」逝く 金田利子 (西ネット世話人)

西ネットの懇談会等にはいつも車いすで参加していた真央さん、白梅学園大学祭では率先して西ネットの展示会場に、一日ずっと滞在し参加者の導入役を務めてくれていた真央さん、同大学の子育て広場には、ご自身が非常勤講師をしている朝鮮大学校の学生たちを連れて、西ネット内にある大学と大学を国際的にもつなぐ仕事に力を注いできた真央さん、第三ブロックに所属し、「きよか」にも体の調子のよい時は参加され、餅つきやバザーなどにいつもできることで精一杯活躍された真央さん、その真央さんが、この4月11日に64歳の若さで帰らぬ人となりました。



4月16日(通夜)、17日(葬儀ミサ)が立川のかトリック教会で行われ大勢の方々に見送られました。

おそらく、大学の専任

教員ではなかったためか、これからご紹介する活動は知る人ぞ知るだと思われそうですが、この西ネットが成立する前史にも大いに関わっていました。地域とのつながりを探求する白梅の動きはそれぞれに蓄積がありましたが、個々になされていて全体のつながりをもっとつけ地域をつなごうという取組みが、私が赴任した2004年ころから始まっていました。真央さんは、そこにも、嘱託研究員として参与し、学生と地域を繋げる活動にも参加してきました。私の授業にも側面から協力していただき、専攻科の学生をまず附属幼稚園に入らせていただいた時にも、また、世代間交流の取組みをしていると聞いて小平第六小学校に学生を連れて参加した時にも私を助けてくれまし

た。こうしたその取組みには本当に力がこもっていました。(白梅学園大学短期大学教育福祉研究センター年報10号)。その力はGPにも反映し、地域交流研究センターの立ち上げにも縁の下の力になってきていると言えます。

真央さんは、福岡市生まれで、東京に出られ、小平市に来るまでは川口市に住んでいました。川口でも小平でも地域の人びと、とりわけ子どもたちの幸せと平和を願って地域活動をしてこられました。幼いころから体が弱かったのですが、50歳を過ぎてから股関節に痛みを感じるようになり、昨年12月に糖尿病が悪化し、インフルエンザの菌をもらってしまい肺炎となり、持病の喘息が重なってしまいました。3月には再度の誤嚥性肺炎の発症により、ご自身の闘病への意欲とパートナーや西ネットの方々の支え、朝鮮大学校の先生方や学生たちの励まし、そして女子医大の医療スタッフたちの努力で、生への闘いを続けてきましたが、ついに最愛のパートナーに見守られて、その大きな愛を皆さんに残して息を引き取られました。西ネットの歴史の中に真央さんのご活躍は刻まれ、ずっと私たちの心の中に生きつづいていきます。真央さん本当にありがとうございました。

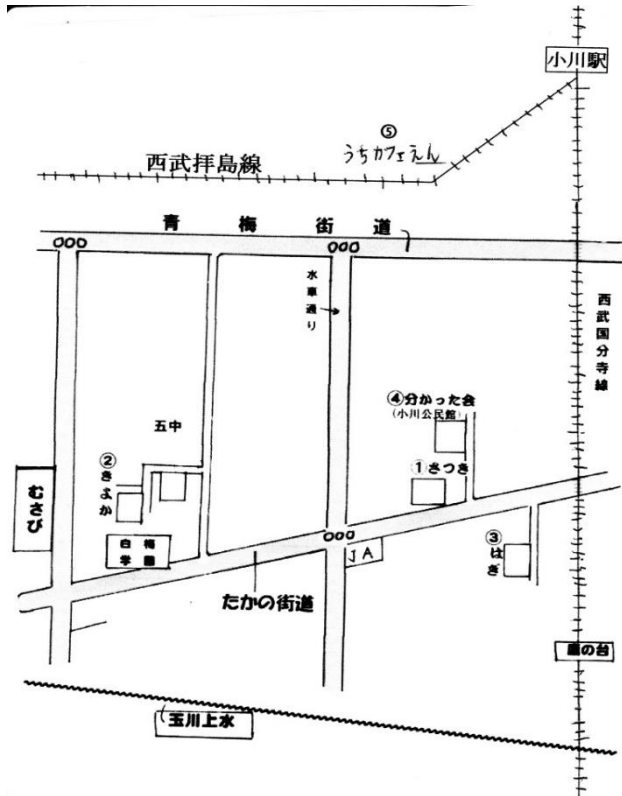


(朝鮮大学校保育科の学生たちと)

**皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?**

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① ほっとスペースさつき  
毎週火曜と木曜 10:00~16:00  
問い合わせ: 渡辺 穂積  
TEL: 042-344-7412
- ② ほっとスペースきよか  
毎週月曜 10:00~15:30  
問い合わせ: 石川 貞子  
TEL: 090-7732-2089
- ③ アットホームはぎ  
毎月 7, 17, 27日: 14:00~17:00  
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ 「分かった会」小中無科学習教室  
毎週木曜日 18:00~20:30 (小川公民館)  
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)  
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ 子育てサロン「うちカフェん」(小川町)  
毎週月・水・木・土 10:00~15:30分  
問い合わせ: 伊藤絹代  
TEL: 090-5441-6219



**イベントの予定**

- 6月23日(土) 白梅子ども学講座「ヒューマニズムをどう考えるか」(13時30分~16時)
- 7月08日(日) ゆうやけ子どもクラブ40周年コンサート  
14時~16時30分 ルネこだいら大ホール
- 9月09日(日) 小平市障害者センターまつり

**西ネットの今後の予定**

- 大学世話人会: 6月19日(火)
- 地域世話人会: 7月03日(火)
- 大学世話人会: 7月17日(火)
- 大学世話人会: 7月31日(火)
- 地域世話人会: 9月11日(火)
- 地域懇談会: 9月25日(火)

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野昂哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

**お願い:** この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

**投稿募集:** このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。  
メール: [everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp](mailto:everonward.nara@xd5.sonet.ne.jp)

**編集後記:** 「小平西ネット」も広く地域に知られるようになってきています。今回は第1ブロックが担当ということで編集してきました。私たちは、地域の取組みをつなぎながら顔の見える地域づくりを目指しています。皆様の積極的な参加をお願いします。原稿を寄せて頂いた方々、ありがとうございました(瀧口)。